

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム浜屋		
所在地	静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2294200080-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム浜屋では「あたりまえの生活の提供と寄り添う介護」を理念に掲げて日々の業務に取り組んでいます。入居者様の「あたりまえ」だった生活を、浜屋でも継続して頂く為にはその方の想いを知る事が第一であると考え「あたりまえ」と「寄り添う」のどちらが欠けてもいけないものなのだと感じています。そして、その心を備えた職員がたくさんいるのだと自負しています。ご入居者様に「ここはいいねえ」と感じてもらえる様な、ホッと安らげる雰囲気作りを目指して、これからも努力していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バリアフリーにはこだわらず、利用者がこれまで暮らしていたであろう日本家屋のぬくもりや懐かしさが随所にあふれたホームである。設立時の思いを途切れさせないように管理者や主任を中心に全職員で理念の実現に励んでいる。運営推進会議や行事等に家族がホームを訪れる機会が多く、利用者顔なじみになり、お喋りのひと時をすごして帰ることもある。また、地域の方々の理解と協力にも恵まれ日常に行事にと温かな交流がある。利用者や家族、職員・地域がまさにトライアングルの関係でホームの運営を支えており、法人によるバックアップも心強い限りである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和室に理念を掲示し、いつでも目に見える様にしている。ご家族や地域の方、他職種との関わりを継続していく事が出来る様に、又、「あなたらしい生活」を継続出来る様に努めている。	理念を基に三つの年間目標を掲げ、更に具体的な月の目標を立てて実現を図っている。ちなみに今月は”言葉遣いに気をつけよう”を目標に、寄り添う介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩を初め、運動会や防災訓練等にも参加させて頂き、交流をもたせて頂いている。困った事が起きた際に、力を貸して頂く事もあった。	開所以来の交流の積み重ねにより地域とのつながりが出来ている。日常の小さな出来事から地域行事等における対応まで、温かな配慮の中で利用者が地域の一員として暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へは自治会長をはじめ民生委員の方にも参加を頂いている。地域の防災訓練等では実際に入居者様と関わる機会も設ける事が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での現状(事故報告や活動内容など)をありのままに報告させて頂いている。民生委員の方や地域包括支援センターの方から助言や質問も頂いている。	開催日は平日と休日のバランスを考慮し、またホーム行事を同時開催することにより出席者が多く、家族同士の交流の場になっている。ヒヤリハットや事故報告は、職員の緊張感と共に今後活かそうとの思いが窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課様に運営推進会議にご出席頂いたり、地域包括支援センターにも定期的に尋ね、施設との関わりを継続に努めている。	各種報告書の届出や介護保険法に基づく実地指導の実施等、市の担当者と連絡を密にしている。また、区の呼びかけによるグループホーム交流会にも参加して地域の介護事業者と情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという事は当然の事であり、その事が空気感にも出ていると思うので、全職員の共通認識として確立されていると感じている。	身体拘束をしないケアは当たり前の事として浸透している。日常生活の中で無意識に出る言葉遣いは、職員間で注意を促すよう取り組んでいる。廊下の障子や玄関は、職員の見守りにより昼間は常に開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待はしてはいけない事」とか「虐待に関して学ぶ」という事も重要だが、まずそういう事をさせない雰囲気作りが大切だと思う。その点に関しては自信がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当される様な入居者様の前例がない為、全体で学ぶ機会は無かったが、知識習得の為に機会を設けていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・変更時には説明と同意を得ている。日常的にもご家族と交流を図る事で小さな事でも聞きやすい空気感を作っている様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的なコミュニケーションの機会を得られたご意見を大事にしている。運営推進会議でも様々なご意見や質問を頂戴している。	面会や運営推進会議への出席、通院のための付添い等で家族と職員が接する機会は多く、特に運営推進会議は全家族が参加している。フリートークで表出したそれぞれの意向は、職員間で話し合い反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	浜屋会議では職員が全員に向けて意見を述べる場面もある。又、普段から職員間で業務について話しており、改善すべき点に対しては解決される様に皆で検討している。	浜屋会議で意見を出し合っており、管理者は法人の会議に出席して必要に応じた相談をして反映に努めている。	このところ間が空いている職員との個別面談の定期的な実施により、更に意思の疎通が図られるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間や、ちょっとした時に一対一でのコミュニケーションをとる中で、想いを把握している。それに対して改善すべき点に対しては、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量を把握する事や、全体で意識を高める点等、その時々で勉強会に組み込む様に指示出しをしたり、全体への情報発信にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区内のグループホームの交流会へ参加をしたり、なごみとの交流の機会を設けている。(親睦会・会議・日常的な物の貸し借り・レクへの誘い等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査等から情報を収集すると共に、コミュニケーションを図る中でご本人様の意向や嫌いな事等を把握している。集団生活の前に、一対一での対応に重点を置き、安心した生活が送れる様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き、実践した事や日頃のご様子を、小さな事でも報告する。不安を感じる事があれば、改善出来る様、心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に必要な専門的な知識を習得(例えば、パウチ交換の方法等)。又、他職種との情報を共有する事で、円滑に流れる様に心掛けた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・食器洗い・買い物・裁縫等のお手伝いをお願いしたり、多種のレクを通して関係性を図る。出来る事はなるべく自分で行って頂き、出来ない事は一緒に行う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出にご協力頂いている。また、季節の変わり目には衣替えに来て下さったり、ご本人様の嗜好品等を随時持参して下さるご家族もいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友人との外出や面会の機会があったり、馴染みのある場所へ行く又は情報を伝えたり、話題に出す事で、思い出す機会になる様に心掛けている。	手紙や旧友の面会は家族から事前に連絡もあり、明らかな状況の中で関係継続の支援をしている。家族と連れ立って知人を訪問したり、希望により職員と買い物帰りに馴染みの店や自宅に寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様が一緒に行えるレクの提供や共通の話題の提供を行う。一人を好まれる方にも声掛けや誘うタイミングを図り、皆様が穏やかに過ごせる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もご家族と連絡を取らせて頂き、その方の面会に行かせて頂く機会があり、ご家族・他施設の方々とも継続的に関わらせて頂く事の大切さを実感した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やその時の表情等からご本人様の思い・希望を汲み取る。又、否定をせずにご本人様が「どうしたいか？」を聞く。困難な方に対してはご家族にお聞きする等の対応に努めている。	日頃様々な場面で交わされる会話や、生活の様子がわかる行動計画表などの活用で、思いを汲み取る事を大切にしている。それぞれの利用者に向けた言葉かけをして、思いを出しやすくする対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に調書をしっかりと読み込む。昔のお写真を見たり、ご家族にお話を伺う事で情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話の中でご本人様の現在の想いを察する事や声掛けのタイミング・話のトーン等を工夫している。入浴など一対一での関わりの中で関係性を築いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その日のご様子や発言を毎日記録する事で日頃の想いをケアに反映出来る様なプランを作成している。ご家族や医師とも日常的に関わりを持つ事で、取り組み易い目標を掲げられていると思う。	個別の行動計画表を作成し、浜屋会議で見直しを重ねている。利用者と家族の思いや状態変化を把握し、結果が目に見える目標の積み重ねにより、利用者にとって現状に必要なケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様のご様子や発言を分かり易く正確に記録する。勤務前に必ず個別記録を読んで情報を得る。個人用と業務用の連絡帳の活用をして、統一したケアが行える様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単一的なケアにとらわれない様に考え、ご本人様にとって必要なケアを取り組める様に努めている。(訪問看護・往診・訪問美容等)様々な選択が出来る様、知識習得にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際に地域の方から声を掛けて頂いたり、町内行事へ参加させて頂く事で、浜屋が地域の中に根付いてきていると感じる。運営推進会議で浜屋の事を発信している事も重要だと感じる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前となるべく変わらない生活を継続する為、受診先はそのまま通って頂いている。必要に応じてご本人様の状態を医師に報告させて頂く等、病院と浜屋との関係性も大事にしている。	馴染みの医師がおり、家族介助による通院が行われている。週に2回訪問看護師に状態変化を詳細に伝えている他、和みの看護師との連携により24時間連絡体制を確保し、医療面での助言を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師に報告を行い、疑問点や心配な事に関して指示を仰いでいる。訪問看護師へも細かく情報を伝え、状態変化に対して迅速に対応して頂ける様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	済生会病院と連絡協力体制をとっている。入院時・入院中・退院時それぞれに対しても医師や看護師・相談員と情報交換を行い、浜屋に戻って来られた際にも、円滑に生活が営める様に努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する説明と同意を得ている。終末期や重度化に関しては、ご本人様の状態によって変わってくるのでその都度説明や提案を行っている。又、より良い対応を図れる様に日頃からの関係作りも重要だと捉えている。	状態変化により家族や医師と話し合いを重ね、意思の確認や方針の統一を図っている。職員は研修や経験により、看取りを迎えた利用者や家族に対して気持ちのこもった関わり合いをしていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年全職員対象にAEDの講習を行っている。連絡手段などのマニュアルを定め、会議等で改めて見直しや復習を行い、非常時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練では地震・火災それぞれを想定して行っている。近年では夜間想定訓練を行い、消防署への相談もさせて頂く事で、具体的な訓練になる様に努めている。	津波警報が発令した場や火災が起きた場合、夜間職員が1名の時など、場面場面に応じた対策が取られている。地域住民の協力も見込まれており、職員や家族への連絡訓練も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する事等、他者に聞かれたくないであろう事は声の大きさや場所を考えて話す。否定をしない声掛けや命令口調での声掛けを避けて、職員も落ち着いた感情で話し掛ける様に配慮している。	就寝時間など、暮らしのペースは個々の希望に合わせている。散歩や入浴など自己決定の場を多くすることで会話も増え、気持ちや希望を出しやすくしている。無理強いや押し付けはしないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの選択(カラオケ・塗り絵・ゲーム等)や調味料・入浴等、ご本人様の希望を伺いそれに添った対応をしている。伝達が困難な方には好みを考えた対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事形態・散歩・昼寝・就寝時間等、その方の希望に添った生活のリズムが送れる様に援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時、鏡の前でご自分で出来る範囲で行って頂く。衣類の選択・化粧やマニキュア等のお洒落を楽しんで頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけで無く、調理や盛り付け、後片付け等の一連を一緒に行う事で食事の時間を過ごして頂く。おやつ作りや季節感のあるメニューを取り入れる等の対応をしている。	利用者や職員の意見を取り入れて1週間の献立を作成している。ホームの畑で収穫した野菜や果物、加えて頂き物なども使用して品数の多い食事が提供されており、好き嫌いの多い利用者にも個別に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様にとって、飲みやすい物や好きな物をその都度伺って提供している。一度に摂取出来ない場合はこまめに少しずつ摂取して頂ける様に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭予防のマウスウォッシュや歯周病予防の歯磨き粉等、その方に合わせて使用している。定期的なケア用品の消毒や、磨き足りない方への個別ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時は定めずにご本人様の排泄パターンに合わせて声掛けや誘導を行っている。又、見直しを行う事でリハパン→布パンツに戻す等、単一的なケアにならない様に努めている。	生きる意欲や自信回復につながるトイレでの排泄の重要性を熟知し、利用者の現状を考慮して真摯に取り組んでいる。誘導時の声掛けなどに気を配り、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の見直しを行ったり、日常的にレクや散歩で身体を動かす・その方にあった食品を取り入れて排便を促す等、必要以上に薬に頼らない様に努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行っている。その中で「入りたい入りたくない」や「何時に入りたい」を伺いながら対応をしている。職員と入居者の個々の対応になる為、コミュニケーションの場としても有効に捉えている。	ほぼ全員が体調を管理しながら毎日入浴している。入浴拒否の利用者も職員の対応によって入るようになった。ゆず湯や時には花を浮かべたお風呂などで楽しむ工夫もしている。循環風呂を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は人それぞれで、テレビを見たり、お話をして過ごす方もいらっしゃる。その他、体調面で休憩が必要な方に対しては、日中も臥床時間を設ける等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬から与薬(空き袋を捨てる)まで、何重にもチェックを行っている。処方に変更点があった際には効果や副作用の把握に加え、その後の状態把握にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居以前からの趣味や馴染みのある土地、ご本人様の性格等を考慮し、興味を持つような事柄(本・食べ物・編み物・裁縫・俳句等)を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の同行や外食(昼食・おやつ)、季節毎の外出(花見・祭り)の機会を設けている。ご家族様に外出の機会(外食や理髪・墓参り等)も設けて頂いている。	買い物や毎日の散歩等の日常的な外出の他、花見などのイベントや外食が行われ、外出機会を作る支援がされている。法人のバスの利用が可能で、遠足には利用者と共に家族の参加もあり喜ばれている。家族や近隣住民の協力も大きな力となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布の管理はご本人様や状況によっては施設で預かり、希望時や買い物・外出の時に持って行ける様にしている。金額の把握の為、何を購入したのか等を記録している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人との文通・年賀状や暑中見舞いをご自分で書いて頂いている。希望があれば電話を掛けさせて頂き、お話が出来る様対応をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい環境作り(空調や臭い)へ気を配っている。又、苑内に不自然な(そぐわない)物は置かない等も注意している。外の景色を感じられるハード面(こたつからの眺めや日向ぼっこを勧める)を活かした声掛けを行っている。	懐かしの我が家を連想させる木造の平屋造りで、今時には珍しい木製の建具や調度品にもこだわりがある。居間にある大きな掘りごたつには自然と利用者が集まり、居心地の良さが感じられる。一人であるいは家族とゆっくり過ごす空間も用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースにはソファがあったり、掘りごたつがあったりと、皆様でゆっくり過ごせる空間があるのに対して、2階や縁側等お一人で過ごす空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使用していた机やタンス、鏡等を持参して頂き、ご本人様に合った備品を揃える様にしている。又、ご本人様の承諾無しに物を動かしたり捨てたりしない様にしている。	家族の協力のもと、使い慣れたタンスや日用品が持ち込まれ、その人らしい部屋となっている。家族の写真や関係のわかる家系図なども飾られている。2階の畳部屋では状態に合わせた工夫がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の出来る事や残存機能を活かせる様な補助具の使用や設置をしている。生活習慣の中でご自分でも把握が出来るので過剰な目印をしない事などに配慮している。		